

【研修の実施状況】

高所作業車を使ったり、ロープワークを用いた特殊伐採技術で伐採するなど、過密人工林の伐採に必要とされる高度な伐採技術の実技研修を実施している。



高所作業車を用いた枝払い実習（新城市）



過密人工林での間伐実習（新城市）



チェーンソーの手入れ（新城市）



ロープワークを用いた特殊伐採実習（新城市）

（２）成果・波及効果

- 事業の開始を契機に、森林整備事業体が増加し、森林整備の担い手の充実につながっている。（表3-5-2）

【表 3-5-2 森林整備工事競争入札参加資格者数の推移】 (者)

区 分	H20	H21	H22	H23	H24
資格者数	43	46	53	58	58

※H21 から事業開始

[資料編:資-1-18]

6 木の香る学校づくり推進事業

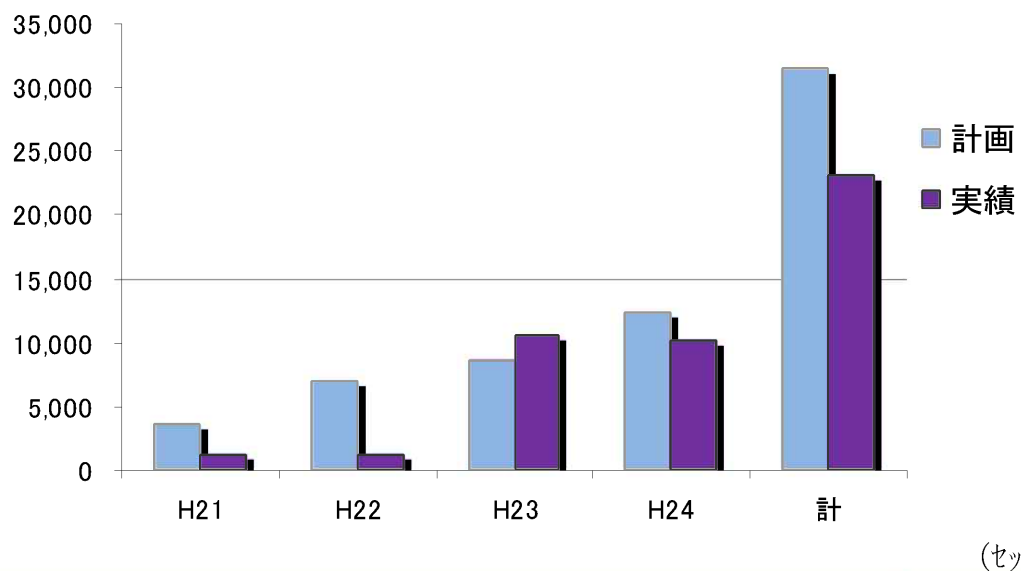
森林整備の意義や木材活用の効果について普及啓発を進めるため、公立小中学校に愛知県産木材を使用した児童生徒用学習机・椅子導入に必要な経費の一部を市町村に交付する。

(1) 実績

- 平成24年度までの計画31,518セットに対し、23,125セットの導入に助成。
全体計画70,000セットに対する進捗率は33%となっている。
- 事業開始当初は実績が低かったが、事業の周知や事務の簡素化などにより、平成23年度から導入数が大幅に増加している。

【年度別実績及び進捗率】

導入数(セット)



区分	H21	H22	H23	H24	計	全体計画 <進捗率>
計画	3,500	7,000	8,620	12,398	31,518	70,000 <33.0%>
実績	1,290	1,108	10,598	10,129	23,125	

[資料編:資-1-18]

【導入された県産木材製机・椅子の利用状況】

県内の幅広い地域の学校で導入されている。



名古屋市 笹島小学校



名古屋市 神丘中学校



尾張旭市 澁川小学校



飛島村 飛島学園



豊田市 青木小学校



新城市 東郷西小学校



東栄町 東栄小学校



豊橋市 松葉小学校

【木の香る学校づくりのための出前授業】

林業普及指導員が学校で森の働きや木を使うことの大切さを講義。



尾張旭市立城山小学校での講義



設楽町立田口小学校での講義

(2) 成果・波及効果

- 市町村等への参考に、県のホームページで紹介している県産木材を使用した机・椅子の製品数は徐々に増加している。(表3-6-1)

【表 3-6-1 県産木材を使用した机・椅子の製作者数及び製品数】

区 分	H21	H22	H23	H24
業者数	5 社	6 社	6 社	6 社
製品数	19 製品	23 製品	24 製品	25 製品

※県ホームページに掲載されているもの

[資料編:資-1-18]

● 県産木材製机・椅子の製品例



● あいち森と緑づくり事業の普及啓発・情報発信

あいち森と緑づくり事業の取組や実績等を広く県民の皆様にお知らせできるよう、様々な形で情報発信をしています。また森林所有者等へ事業の説明をして理解をいただきながら事業を実施しています。 [資料編:資-1-1]



(間伐体験：豊田市)



(都市緑化見学
：名古屋市)

森と緑づくり体感ツアーにより事業地見学や間伐体験を実施（写真は平成24年11月17日、18日の開催状況）



コンビニエンスストアにパンフレット設置、ポスター掲示
(名古屋市)



イベントで事業説明パネルの展示
(名古屋市)



森林整備に関する地区ごとの説明会
(東栄町)



森と緑づくり基金への寄附贈呈式の状況をメディアで報道（名古屋市）

第4章 県民や事業関係者の意識

これまでの取り組みや今後の方向性に対する県民や関係者の意向を把握するため、アンケート調査や意見交換等を行った。

1 アンケート調査

(1) 県民アンケート [資料編:資-2]

ア 調査の概要

調査対象	県内に居住の20歳以上の男女3,000人（層化二段無作為抽出法で抽出）
回答数	1,506人（回答率50.2%）
調査時期	平成24年8月から9月（郵送法）

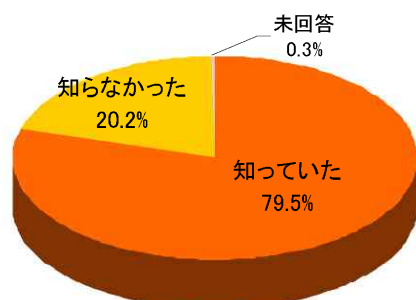
イ 調査の結果

- 森や緑の公益的機能について8割が知っていたと回答。また、ほとんどのの方が健全な森と緑を後世に引き継いでいく必要があると思っており、森や緑を守っていくという県民の意識は高い。
- 多くの方が、あいち森と緑づくり税について知らないと回答したが、あいち森と緑づくり税を活用した取組を必要と思い、税や取組の継続に賛成している。

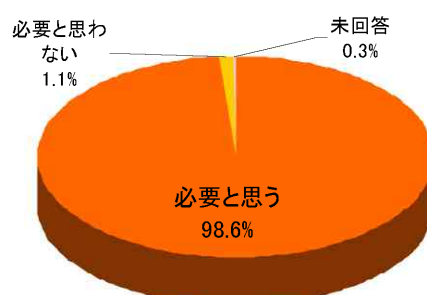
(ア) 森や緑に対する県民の意識

・ 森や緑が災害の防止などの様々な公益的機能を有していることについて約80%の方が知っていたと回答している。(図4-1-1)

また、約99%の方が将来に向けて健全な森と緑を引き継いでいくことが必要と回答している。(図4-1-2)



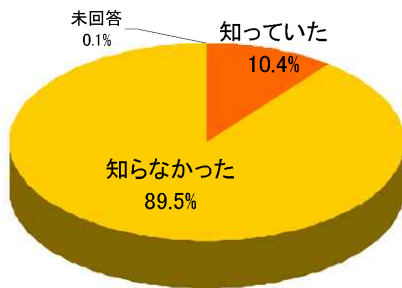
【図4-1-1 森や緑の公益的機能の認知度】



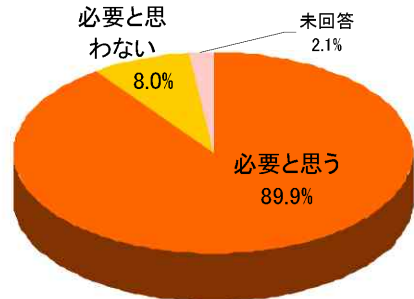
【図4-1-2 健全な森と緑の継承】

(イ) あいち森と緑づくり税、事業に対する県民の意識

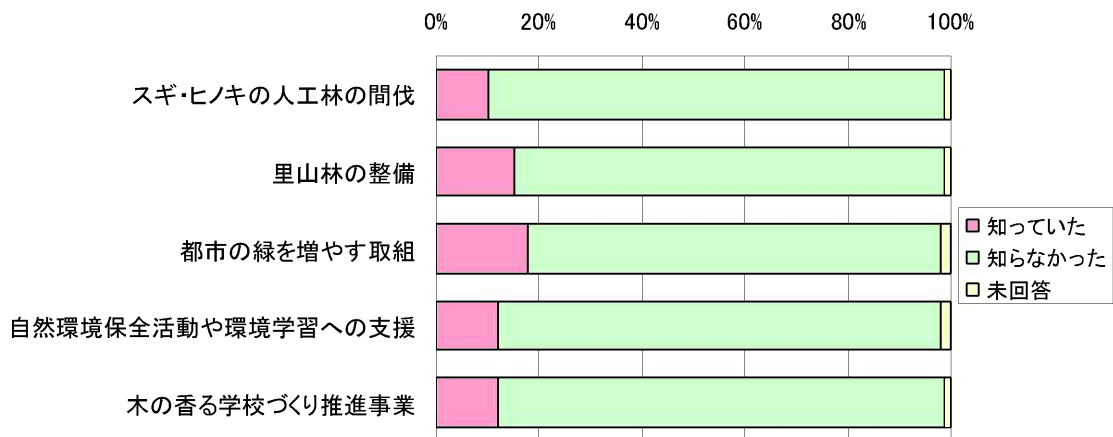
- ・調査以前に、あいち森と緑づくり税のことを知っていた方は約 10%で(図 4-1-3)、あいち森と緑づくり税を活用して実施している各事業について 80%以上の方が知らなかったと回答している(図 4-1-5)が、約 90%の方があいち森と緑づくり税を活用した取組が必要と回答している。(図 4-1-4)



【図 4-1-3 あいち森と緑づくり税の認知度】

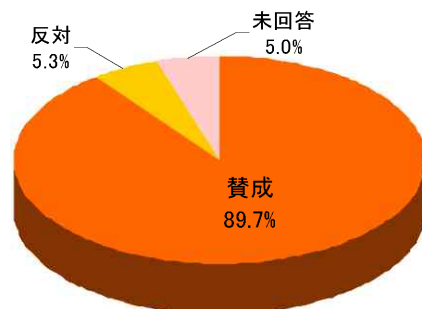


【図 4-1-4 あいち森と緑づくり税を使った取組の必要性】



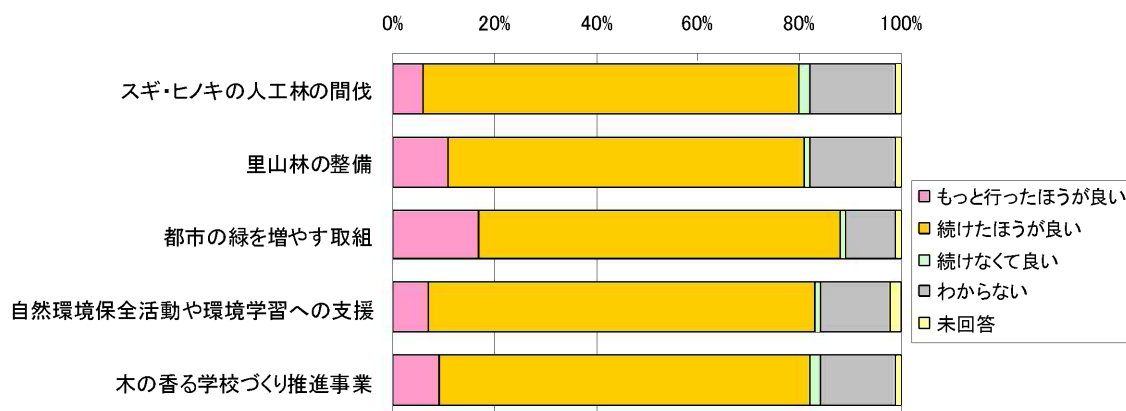
【図 4-1-5 あいち森と緑づくり税を使った取組の認知度】

- ・あいち森と緑づくり税を継続し、森と緑づくりに取り組むことについて約 90%の方が賛成と回答している。(図 4-1-6)



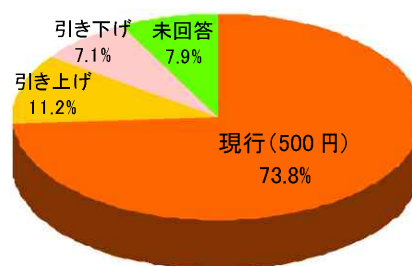
【図 4-1-6 あいち森と緑づくり税の継続】

- ・また、あいち森と緑づくり事業の各事業についても 80%以上の方が継続した方がよいと回答している。(図 4-1-7)



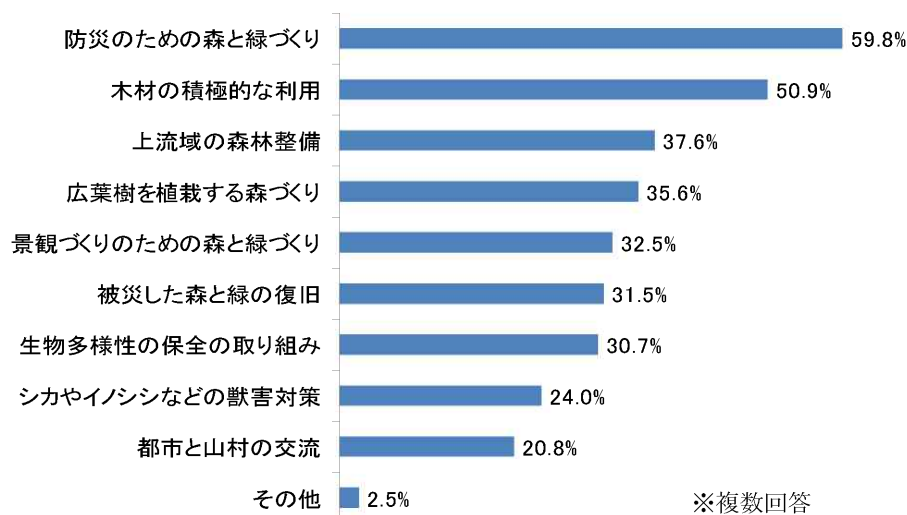
【図 4-1-7 あいち森と緑づくり税を活用した取組の継続】

- ・あいち森と緑づくり税を今後も継続する場合の個人の負担額については、現行の 500 円が適当と回答した方が約 74%、金額を引き上げるが約 11%、引き下げるが約 7%であった。(図 4-1-8)



【図 4-1-8 あいち森と緑づくり税の今後の負担額】

- ・今後の取組を検討したほうがよいと思われるものとして「防災のための森と緑づくり」、「木材の積極的な利用」等が選択されている。(図 4-1-9)



【図 4-1-9 今後検討したほうが良いと思われる取組】